

くらしナビ 生活スタイル

戸建て用需要急増で多様化

宅配便の増加で注目が高まる宅配ボックス。不在時の荷物受け取りが可能になるため、集合住宅だけでなく、戸建て住宅用の需要も増えている。どんな商品があってもどのような使い方ができるのかまとめた。



宅配ボックス

NOGUCHIによると、戸建て用ボックスの主な価格帯は3万円前後だが、低価格商品は数千〜1万円前後、高価格商品は10万円前後まで幅広い。3辺の合計が100センチを超す大きいものや、配達物を2個以上受け取れるもの、宅配便の発送ができるものとサイズや用途は多様化している。冷蔵宅配に対応する本格的な戸建て用ボックスは一部発売されているが、ほとんどのボックスは未対応だ。



インターホンが付いた門柱一体型の戸建て用宅配ボックス＝東京都中央区で

シンの実を摘む

朝晩の気温が20度を下回り、半袖では寒さを感じるようになってきた。菜園のコンポストに生ゴミを捨てに行き、ふと気づくと、わたらの青シンの白い花の穂がついている。いつだったか植えたものが毎年、自生している。「穂先に少し花が残っている頃に摘むといいのよ」料理上手のいとこの言葉を思い出して、一口大に切った白菜を漬ける時に使うと、とても風

女の気持ち

2017.9.26

味がよくなる。いいタイミングで摘んだ実は、硬くもなくて香りもよい。でも昨年はすっかりして、収穫時期を逃してしまっただけだ。指先が黒くなるのもかわらず実をこぼして。青シンの枝先にいたカマキリが、しびしびと立ち去る。遠くから稲刈り機の音が聞こえてくるだけの、静かな秋の朝。見上げれば空はあくまで青々、どこまでも高い。日に照らされて体がほんわり温かくなってきた。

幸せて何なのかは、自然が教えてくれていると思った。 山梨県韮崎市 藤沢 令子 無職・71歳

食卓の一品

キャベツ入りポテトサラダ

1人前 236kcal、塩分0.8g

いつものポテトサラダが食感良く、栄養価もアップ。

【主な材料】(4人分) ジャガイモ3個▽キャベツ150g▽ニンジン1/2本▽ハム3枚▽A(マヨネーズ大さじ6、酢小さじ1、塩少々)▽塩少々

【作り方】 ①ジャガイモは皮をむき、4〜6等分に切ってさっと洗う。ニンジンは薄いイチョウ

切りにする。共に鍋に入れてひたひたの水を加え、ふたをして軟らかくゆでる。湯を捨てて水を飛ばし、ボウルに移してつぶす。 ②キャベツは千切りにして、塩をふって軽く混ぜ、10分おいて水気を絞る。ハムは1センチの粗熱が取れたらAを加えて混ぜ、キャベツとハムを加えて全体を混ぜる。

料理研究家 田口成子

③地面に据え置くタイプの戸建て用宅配ボックス＝パナソニック提供のワイヤで固定するタイプの簡易型宅配ボックス。不在時のみ屋外に設置して荷物を受け取ることもできる＝東京都中央区で



荷物の受け渡しは、宅配業者が配達物をボックスの中に投入して施錠し、受取人が備え付けの鍵や機械式のダイヤルロック錠で解錠するタイプが多い。使用を始める際は、荷物の紛失や盗難を防ぐため、宅配業者への通知が必要だ。

最も売れているのは価格が約1万円、ワイヤで門柱などに固定する簡易な布製ボックスだという。一方で、床面に穴を開けてネジで固定するほか、柱を打ち込んだり門扉に埋め込んだりする外構工事が必要な商品も多い。佐藤さんは「低価格の簡易型は、最初の1台として気軽に試したいという人に人気。一方で、防犯性が高く外観になじむスタイルッシュなデザインの宅配ボックスも増えてきた。ニーズは二極化している」と話す。

日本郵便の場合は、最寄りの郵便局宛てに宅配ボックス利用の申込書を提出する。その後、郵便局担当者が現地に赴き、雨や漏水で荷物が汚損されない▽安全な強度や錠前を備えている▽盗難防止のために固定されている―などを確認し、配達を開始する。ヤマト運輸も「利用前に必ず配達員に直接、利用の意思と方法を告げてほしい」と呼びかける。宅配ボックスを設置しても、1回目は配達員から直接荷物を受け取り、その際にボックスの利用を告げると、営業所で情報を共有し、次回からボックスに荷物を配達する。利用開始の意思が確認できなければ、設置されていても荷物を入れることはないという。

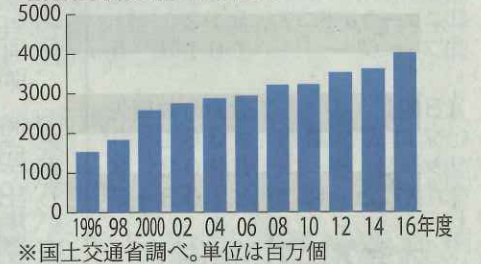


▼「煎茶、ほうじ茶、抹茶、和紅茶でつくる日本茶のさわやかスイーツ」(本間節子著) 菓子研究家の著者は、約20年前から日本茶に関心をもち日本茶インストラクターの資格を取得。お茶に合う菓子や、お茶そのものの風味を楽しむ菓子を提案してきた。本書は、煎茶、ほうじ茶、抹茶、和紅茶を使ったマドレーヌやケーキ、大福、ドーナツなど50のレシピを紹介。ここ数年、日本茶の種類は増えた。飲むだけでなく、菓子の素材としても楽しみたい。(世界文化社、1512円)

配達は大分に減らすことができてきた。パナソニックは2016年12月〜17年3月、福井県あわら市の106世帯に戸建て用宅配ボックスを設置し、再配達率の増減を調べる実証実験を実施。その結果、設置前に49%だった再配達率は平均8%にまで減少した。住民からは「宅配の時間指定を気にしなくてもよくなった」「玄関に出なくてもよいのでうれしい」という声が寄せられたという。パナソニックの担当者は「今後はポストと同じ位置づけで、特に新築戸建てでは一家に1台が設置される時代が来るのではないかと話した。」

【塩田彩、写真も】 2次回は「食」です

宅配便取扱個数の推移



●取り扱い20年で2.6倍

インターネット通販の普及で、宅配便の取扱量は年々増加。国土交通省によると、2016年度の宅配便の取扱個数は40億1900万個で前年度比7.3%増だった。1996年度は15億3000万個で、取扱量はこの20年間で2.6倍に増えている。